

特別第2分科会(文部科学省協力)基調講演メモ

AI・ロボット時代を生き抜く情報活用能力をどう育むか

- 家庭で「情報のリスクに対応する力」を育成するための3つのポイント -

静岡大学教育学部 准教授 塩田 真吾

講演の趣旨

最近、chatGTPなどの生成型AIが話題になっています。このようなテクノロジーを用いてより豊かで持続可能な社会を実現するSociety5.0では、今後どのような力が必要なるのでしょうか。学校教育でも、GIGAスクール構想のもと1人1台端末が配布され、まさに「学びの変革」期になってきています。この変革の時代に、学校や家庭でどのような力をはぐくむのか、具体的なワークを通して一緒に考えてみましょう。(大会要項からの抜粋)

1 アイスブレイク➡研究の紹介

○ ヒューマンエラーは、なぜ起こるか。

考えてみよう ➡日本国内で一番店舗数が多いのはコンビニ、歯医者、美容院？

選 択 肢 A 美容院24万店 コンビニ5万6千店 歯医者約7万店

○ 人は、よく見るものを多いと思い込んでしまう。

ヒューマンエラーの大きな原因

考えてみよう ➡どんな人のことをイメージしますか。

- ① 単身赴任先から帰って来た人は？
- ② 男性(46)、女性(30)、女性(25)の部長は誰か？
- ③ ブラジルから来た少年の特技は？

○ 無意識の思い込みで、物事を想像・判断していることが多い。

2 ロボット時代に必要な力は？

考えてみよう ➡私たちは、ふだんよく考えている？ それとも考えなくなった？

- ・ グーグルマップに示された道順通りに進む。
- ・ 乗り換え案内アプリの指示に従う。他

ロボット時代には、「情報活用能力」をどう育てていくかが必要。

「情報活用能力」➡情報を上手に活用する力+情報のリスクに対応する力

考えてみよう ➡検索にて、神奈川県で横浜と鎌倉以外の観光地を調べるには？

○ マイナス検索➡知っていれば得られる情報が違う。

考えてみよう ➡スマホ等での心配なトラブルは？

6,000人を対象に、トラブルの頻度と深刻度をリストアップ
小・中ともに、心配なのは、

- ・ コミュニケーションによるトラブル 悪口、いじめ
- ・ 長時間利用

○ では、家庭でどんなふうにしたら・・・？

「知識」があれば「行動」できるか？

著作権の侵害や不適切な表現～は、知識の有無が行動に大きく影響する。

しかし、コミュニケーションによるトラブル(悪口、いじめ)や長時間利用では、知識の有無は、あまり行動に影響を及ぼさない。

そこで、

提案のポイント①

■ 様々なトラブルへの自覚を促す。➡自分ごとにする手法

「自画撮りトラブルから身を守ろう」

考えてみよう ➡多くの子どもたちが、「自画撮りなんて送らない」と思っていますが。

- 危険な事例の提示・価値の強制では・・・
- シュチュエーションを想像させることで自覚を促す。
- 自分が送ってしまいそうなシュチュエーションを考える。

どんな、だれに、どのように言われたら・・・
自分ごとにするとは、

- ・ 自分も送ってしまうかもしれないというシュチエーションから考えること。
なぜ、絶対に大丈夫という人ほどトラブルに遭うのか？
トラブルがおきる状況を想像できないから大丈夫と思ってしまう。
- 様々なトラブルは、それをやっちゃう時って、どんな時？と、やってしまうシュチエーションの想像による自覚化が大事。

考えてみよう ➡ 断り方を考えよう。

- 理由を付けて、きっぱり断る。
例えば、それはできないよ。親戚に警察関係の人がいるんだ。

提案のポイント②

■ リスクの見積もり力(危機予測)を高める。

- 子どもたちのリスクの見積もりの甘さ
「これくらいは、大丈夫だろう」、何が危険かわかっているのか。
- 1か0かの発想ではなく、リスクのグラデーション発想
「どのような特徴があったら、危険と判断すればよいのか」という危険を予測する力を育む。

考えてみよう ➡ 「どこまで教えてようかな？」 「どこまで公開してよいのかな？」



いろいろな回答がある。考えたことを親子で話すことに価値がある。
どの程度のリスクか？
どのくらいの危険があるか？

配付資料を一部抜粋したもの

提案のポイント③

■ 時間管理に関する「自律の力」を育てる。

24時間の時間の使い方を比較し、タイムマネジメントの力を育てる。

- 自分の意思でやめられない 依存
他のやるべきことが、どれだけできていないかという
いつまでも「他律」(怒られたからルールを守る)だけでよいのか？
将来のことを考えて、「自律」の力をどのように高めていくか。
- マネジメントはなぜ必要？
やることだけでなく、やりたいことを考えておく。
やりたいことについて、複数の選択肢をもてると効果的
- 自律を促す「タイムマネジメント」の基礎
・ やることを書き出す。 ・ 「時間」を予想する。 ・ やる順番を考える。
- 子どもにとって難しいのは、「時間を予想する力」
早い段階から繰り返し経験すること。
1回経験をしていることの大切さ
時間を管理に関する自律の力を育てるには、楽しいことを一緒にしてみる。

(記録 茨P連事務局)